

読まない子の理由

9割は これだった

親子の読書コーチ あんこ

本に興味がない ゲームと動画をみてばかり

親の言うことを聞かない すぐに飽きる

「読んで」と一人読みができない

100人の海外在住親 と話した 現役日本語教師 が教える

たった1つの理由



はじめに

こんにちは。

私、あんこと申します。

日本語教師として日本語を教えながら、海外に住むお子さんに読書習慣をつけてもらうためにお母さん達にコーチングをしています。

私自身も海外で出産や育児を経験しました。

我が子に「読書」をしてほしい！と願う親御さんは本当に多いです。

それはなぜでしょうか？

「頭がよくなりそう！」

「国語力（語彙力）を伸ばしてほしい！」

「日本語をキープしてほしい」

理由は様々ですが、みなさん一様に読書に良いイメージを持っていたようです。

軽い気持ちの方から、自身の経験から切に願っていらっしゃる方、もうタイムリミット（言語習得の）が目の前なんです！と切羽詰^{せっぱ}まった方・・・

これまで100人近い海外在住のお母さん達とお話しして見えてきたのは、

「本を読んでほしい」

と、思っている方が多い一方、

「子どもが本を読んでくれない」

とお悩みの方も多いということ。

そして、私は気づきました。

「間違ったアプローチで余計に読書嫌いになっている」

ということに！

お母さん達があれこれと、読ませるために努力や工夫をしていることが

かえって、子どもを本嫌いに行っているとしたら、こんな残念なことはありません！

本書では、親御さんの誤った思い込みに気づいていただくとともに、

「本を読ませる」テクニックの前に、

「もっと大切なもの」

について、お伝えしていきたいと思います。

目次

- 1 読まない理由はズバリ、「親のアプローチの悪さ」だった
- 2 興味を持たない子
- 3 言うことを聞かない子
- 4 すぐに飽きる子
- 5 「読んで」と自分で読もうとしない子
- 6 ゲームや動画しか見たくない子
- 7 習慣のない子
- 8 最後に

読まない理由はズバリ、「親のアプローチの悪さ」だった

結論から言いましょう。

お子さんが本を読まない理由の9割は「親のアプローチの方法が悪いから」です。

お断りしておかないといけないのですが、きちんとデータを集計したわけではないのであくまで肌感なのですが、「読んでほしい」と思っているのに、その言動が余計に、お子さんを本から遠ざけていることになっているのです。

いや、うちの子はどんな言葉をかけても同じ、と思われる方、

それは親子のもっと根本的なところに問題があると言わざるを得ません。

お子さんの反応ごとに詳しく理由を見ていきましょう。

興味を持たない子

私は定期的に、「子どもに本を読ませたい」とか、「楽しく日本語を伸ばしてあげたい」と考えていらっしゃる親御さん（主にお母さん）に向けて相談会をしています。

相談に来られる方の状況は、十人十色で

- ・ 駐在として短期間海外に住んでいる
- ・ ご主人が海外の方で海外に完全に移住している
- ・ 日本人家庭だが海外に移住している
- ・ インターに通っているが家庭内は日本語
- ・ 現地校に通っているが家庭内は日本語
- ・ 現地校に通っており、家庭内は日本語と現地語を両方使用

など、さまざま。

インターや現地校に通われているお子さんも、補習校や日本語学校で補習を受けているかどうかもお家庭や生活環境により、さまざまです。

だから、今、お子さんに求めること、今後求めることも、本当にバラバラです。

帰国予定があり、将来は日本で進学する、というパターンもあれば、海外に永住予定だが、大学は日本の方が学費や安いので日本で進学させたい、というパターンもあります。

いずれのパターンであっても、親とすればできれば

「子どもが将来、選べる選択肢を増やしてあげたい」

と思うのが親心なのではないでしょうか。

なので、永住組の方でも

「将来、子どもが日本に住みたいと言ってきたら、住めるような日本語力は付けさせたい」と答える方がほとんどです。

ただ、その後に

「でも補習校も最近は嫌がって、日本語をどんどん話さなくなってるんですよ。このままじゃおじいちゃんやおばあちゃんと話すことだって維持できるか心配です」

と仰います。

「では今はどんな日本語の学習をしていますか」

と聞くと、

「週1回の補習校ですね。それもイヤイヤなので、いつまで続くか・・・」

という返事。

日本で考えると

「週1回の英会話スクールにイヤイヤ通っています。でも将来は進学先は日本かアメリカ、どちらか選べるようにしてやりたいと思っています」

ということですね。

これって可能でしょうか？

普通に考えると無理ですよね。

なんで無理なんでしょう？

本人に意思がないから？

イヤイヤやってるから？

こういうと

「子どもなので、将来のことを今考えるのは難しいし、意思を持続けることも子どもには難しい」
そう言われるかもしれませんが。

そうなんですよ!!

子どもにはいくら将来の必要性や、今頑張ればあとが楽だから、と言っても、その概念がありません。

十歳くらいから時間軸がわかってくるようになりますが、今の欲望や衝動をコントロールする力が未熟なので、今を優先してしまいがちです。

「じゃあいくら説明しても無理なんだったら、今日本語を勉強するのは無理じゃないか」

と思われるかもしれませんが、少し待ってほしいのです。

お子さんはどうしてイヤなんでしょうか？

こう聞くと、考え込んでしまう方もいますが

「漢字が嫌いなんです。補習校では、毎回漢字テストがあつて…。覚えてもここでは目にする機会もないし、覚えても意味がない、と思つてゐるようです。実際、すぐに忘れてしまうので、本人もやる気が持てなくなつてゐるようです。」

という声が聞かれます。

つまり、

「楽しくないし、覚えても意味ないじゃん！」

というお子さんの気持ちが「イヤイヤ」にさせてしまつてゐるんですね。

もし、あなたがアメリカに住んでいて、タイ語を習い始めることになったと仮定します。

理由は、将来夫の仕事でタイに行く可能性が出てきたからです。

確かに今のうちに勉強しておけば、将来引っ越してからバタバタせずにすみそうです。

タイ語って勉強したことありますか？

タイ文字なんですよ。アルファベットとは縁遠い感じの形です。

กขคฅงจฉชฌฌญ
ฎฏฐฑฒณดตถท
ธนบปผฝพฟภมย
รลวศษสหฬอฮ

図1 タイ文字

しかも、アメリカでタイ語を使う機会はないし、文字を見る機会もない…

でも、いつか将来使うことがあるなら、となんとか頑張ってタイ語を勉強することができるかもしれない。

でも、それがいつ終わるともなく続くとしたら・・・

そもそもタイ行きが怪しくなってきたら・・・

モチベーションを保つのは大人でも難しいと思います。

子どもなら尚更なのは火を見るより明らかです。

誰だって、面倒くさいことや好きでもないことを続けるのは苦手です。

ここで、少し、深掘りしてみましよう。

お子さんが嫌なのは「何」に対してなのでしょう？

- ・土日の楽しい時間が潰れるのが嫌
- ・宿題が嫌
- ・テストが嫌
- ・漢字練習が嫌
- ・補習校自体が自分とあっていない
- ・補習校の先生が好きではない

もしどれかが原因で補習校が嫌だと言っているとする、日本語自体が嫌、ではないかもしれません。

興味がないのではなくて、

何が嫌なのか、きちんとヒアリングできていますか？

「読書」も同じです。

「本、読んだら？」

「やだ」

- ・この本は嫌だ

- ・今は嫌だ

- ・今は他にしたいことがある

- ・この場所では嫌だ

・一人では嫌だ

何が嫌なのか、きちんと聞いていますか？

まとめ

「興味がない」のは当たり前。

何が「嫌」なのか掘り下げよう

言うことを聞かない子

「そもそも、親の言うことを聞かないんですよ」

と言う方も中にはいらっしゃいます。

「ほなもう無理ですね」

と言いたくなってしまうところですが、もう少し深掘りしてみましよう。

なぜ、そんなことになってしまったのでしょうか。

一つ目の理由は、そもそも子どもが「聞く耳」を持っていない。

相手がこちらの言うことに耳を傾ける準備ができていない、という状態です。

ここでクイズです。

相手を説得する時に必要なものは？

答えは、

「相手に聞く準備ができているか」

です。どんなにいい話でも、相手に「よし、聞いてみよう」という気持ちが無ければ伝わりません。

お子さんは「話を聞く準備」ができていますか？

「話を聞く準備ができている」とはどんな状態でしょうか？

それは「信頼」です。

「この人の話なら聞いてみよう」

と思ってもらえて初めて、話を聞いてもらえます。

それは親子関係でも同じです。

いつも怒ってばかりの親、「それはダメ」「ああしなさい、こうしなさい」ばかり言っている親であれば、子どもはうんざりして「どうせ自分の話は聞いてもらえない」「また怒られるんだろう」と思い、「聞く耳」を持つとしなくなります。

「子どもだから親の話を聞くのは当たり前」という概念は関係ありません。

心の自然な働きからそうなるのです。

NLPという著名なセラピストや精神科医の心理療法や催眠療法を分析、体系化した学問を聞いたことがあるでしょうか？

それは精神に問題を持つ人のセラピーやカウンセリング、またスポーツ選手の能力開発やマーケティングへの効果の高さから注目され活用されています。

そのNLPでは「信頼」を築くことで良好なコミュニケーションが取れると言われています。

また、『相手の反応は自分のコミュニケーションの成果』だと言われています。

良いコミュニケーションが取れる状態ではないのに、お子さんがこちらの提案やアドバイスを聞いてくれる可能性は低いでしょう。

なので私の受講生の方にはまず、親子のコミュニケーションの上手な取り方から学んでもらっています。

ＺＺＺを用いた声かけや心理学を学んで自分の言動を変えれば、その成果はお子さんの反応の変化となって実感できます。

ちょっとした言葉を変えるだけなのですが、自分ではその言葉の差に気がつかないまま、使っているかも知れません。

言うことを聞かないもう一つの理由は、年齢的なもの。

思春期に近づくにつれ、子どもには自然と自立心が芽生えます。

急に親にあれこれ言われることを嫌がったり、反抗的な態度を見せたり。

しかし、順調に成長している子どもなら誰しも通る道。健康に育っている証拠です。

けれど、

「親の言うとおりににはしたくない！」

これが強くなる時期に、無理にアプローチすると余計に反発される事態になります。

「禁止」されると1.5倍やりたくなる、という研究結果があります。

それと同じように「強制」されるとやりたなくなるもの。

一つ目と二つ目が重なると、ここから挽回していくのは非常に難しくなってしまう。

思春期になる前に親子の信頼感を築いておくことが、来る思春期への備えになるでしょう。

※NLP (Neuro Linguistic Programming＝神経言語プログラミング)とは有名なセラピストや精神科医の心理療法や催眠療法を分析してセラピーやカウンセリング、また能力開発に向けて体系化されたアメリカ発祥の学問です。興味のある方はぜひ詳しく調べてみてください。

まとめ

「聞く耳」がなければ言うことを聞かない。

まずは「信頼」を築こう

すぐに飽きる子

「自分で本屋さんで決めたのに、ぱらっと見て、もう開こうとしないんですよ」

私は「読書コーチング」をする際、お子さんの性格に合わせたアプローチが有効だと考えているので、まずはお子さんとお母さん（時にはお父さんも）の性格診断を行っているのですが、「すぐ飽きる」特徴を持っているのは「楽天家」のお子さん。

興味があっちこっちへ向いて、飽き性、最後までやり通せない、と言われがちな特性があります。

それをお伝えするとお母さんたちは「まさにそう！！」と言われることも多いです。日々お子さんの楽天家ぶりを感じていらっしゃるんですね笑

さて、ここで大事なのは

「自分で決めたことは最後までやり通しなさい！」

と、苦手なことを強制して、余計に苦手にならしてしまうのが一番良くないということ。

「楽天家」のお子さんであってもなくてもです。

飽きてしまったことを批判するのではなく、認め、

「なぜ嫌になってしまったのか」

を探ってみてください。

例

- ・予想と違った内容だった
- ・予想していたよりも難しかった

・他におもしろそうなものを見つけた

「予想と違った」場合は、飽きたというより、「氣にいるものではなかった」ということですね。

であれば潔く別のものを探しましょう！

その際も

「チャレンジしようと思ったことはナイスチャレンジだったね」

「素敵な表紙の本を見つけられたね！」

と認めてあげること、継続して意欲が持てるようになってきます。

「予想よりも難しかった」場合は、自分の本来のレベルと、本のレベルが一致していなかった場合。

先ほどと同じようにチャレンジしようとしたことを認め、

「1年経ったら、もしかしたら読めるようになってるかもね！」

と、今その子に合うものを一緒に見つけてあげましょう。

漢字にふりがながあれば読める場合もあるので、その場合はちょっと大変ですが、ふりがなを振ってあげると読めるかもしれません。

「他におもしろそうなものを見つけて興味がなくなってしまった場合」は、先ほどの「楽天主タイプ」の子に多いのですが、「鉄は熱いうちに打て」と言いますが、興味を持っているうちに触れさせるというタイミングも重要だったりするので、意識しておくといいかと思います。

とはいえ、なくなってしまった興味を無理に持たせるのは難しいですね。

その場合は、先にその今気になっているおもしろそうなものを満足するところまでやらせてから、一緒に立ち返ってみると興味を持ってくれたりする場合があります。

例えば、学校で流行っている間違い探しの本が流行っていて、先日買った本は手にしない、という場合、間違い探しの本を満足するまでやらせてみて、その後、

「お母さんは〇〇ちゃんがこの前選んだ本も気になってたんだよね。今から読むけど一緒に聞く？」と誘ってみる。

それでも興味がなければ、お母さん一人でしばらく読んでみてください。

一緒だと、案外乗ってきてくれる場合もありますし、お母さんが興味があるものに子どもは興味があるもの。「ぷっ」と途中でお母さんが吹き出したりなんかすれば「なにになに？」と覗きに来ることもあります。とにかく、**子どもの感情は生ものです。**

その時その時のお子さんの様子や反応を観察していく必要があります。

まとめ

「飽きた」原因は？

チャレンジを認めて

今「楽しめるもの」を探そう

「読んで」と自分で読もうとしない子

「読み聞かせは小さい時からしてきたんですが…」

読んでもらうのは好きで、本も好きなはずだけど、自分で読もうとしないというお子さんも海外在住のお子さんに多いです。

それは当たり前といえば当たり前のこと。

日本では幼稚園から文字の学習が始まるところもあり、お手紙交換なんかもし始めたりします。

そして一番大きいのは、小学校での「国語」の時間です。

まず、小学校に上がると、子どもたちは今まで使っていた「話し言葉」のほかに「書き言葉」があることを知ります。

大人はこの二つを特に意識していないかもしれませんが、全然違います。

厳密に言つと、さらに「公での話し言葉」も学びます。

「昨日、おかあさんが カレー作ったんだ」

「昨日、おかあさんが カレーを 作りました」

「昨日、母が カレーを 作ったんです」

少しずつ、使われる場面が違ふことがわかんと思います。

こうやって日本語にもいくつかの種類があることを理解し、「書き言葉」を読み、学んでいきます。

そう、学校で読むものは全て「書き言葉」なんです！

教科書は全て「書き言葉」で書かれています。

なのでまず入学したら「書き言葉」をとことん「読む」ことを学んでいます。

娘が1年生の時の時間割は1日4時間授業に国語が2時間！

毎日！

「読む」ことが苦手な子もこれだけ「読む」練習をさせられたら「読める」ようになっていきますよね。

好きかどうかは別として：

日本で小学校に通っているお子さんと、海外でインターや現地校に通っているお子さんとは、この基礎作りの部分が全然違います。

なので、

「6歳になったからそろそろ一人で読めるでしょう？」

というのは

「20歳になったからそろそろ車を運転できるでしょう？」

と同じくらい無謀むぼうなのです。

何事にも段階があつて、興味好奇心が強い子はその駆け上がるスピードが速いものの、みんな同じ段階を踏んでいきます。

「音読させても、同じところを何度も読んだり、意味がつかないところで区切ったりして、意味を理解していないんです」

とおっしゃる方も多いのですが、もちろん日本で学んでいる子も同じ段階を踏んでいますからご安心ください。

「そこで区切っちゃう？」

「なんか違うこと言ってない？」

「・・・ゆっくり過ぎて意味がわからない！笑」

娘も同じような音読をしていました！

その時間違いばかり指摘されたらやる気なくなってしまう。

「ん？今なんて言った？」

「あくだから〇〇（言いなおし）って言ったんだね」

とそれとなく、本人が気付くような言葉をかけます。

読んでくれた内容をしっかり聞いて、感想や疑問などをお話しできると、自分が読んだ内容が相手に伝わった、とお子さんが読んだ意義が見出せます。

「えー今日はここまで？続きが気になるな」

「知らなかったことがたくさんあったな。〇〇ちゃんは△△って言葉知ってた？」

と、ストーリーテラーである子どもを盛り立てます。

決して「正しく読む」ことが目的にならないように。

「読んだ」ことから広がる「話題を楽しむ」ことを目的にして音読を楽しんでください。

話が少しずれましたが、日本で学んでいる子どもたちは「語彙」の方が「文字」よりも優勢で、「文字」を追う中で、「あ、この文字はこの言葉だったんだな」と結びつけていくことができるようになり、たくさん並んだ「文字」の中から、自分の知っている言葉とすぐに結びつけて、すらすら読めるようになっていきます。

しかし、もともと知らない語彙ばかりだと読むのは非常に困難です。

外国語を学んだ経験があれば想像がつくと思いますが、例えば、なんとか発音できたとしても、全く知らない単語ばかりであれば読み進めるのは相当苦痛だと思います。

私がタイ語を学んでいた際にも同様のことが起こっていました。

知っている単語であれば、文字がきちんと読めなくてもある程度推測して読むことができますが、知らない単語だと読み方もわからずお手上げです。

ですので、まずは音読の前に、耳からたくさん日本語を入れて、語彙を増やしてあげることがスムーズに「音読」できる鍵になります。

音読ができれば黙読もできるようになります。

読み聞かせから一人読みができるようになるには、親子の読み聞かせタイムに段階ごとにステップアップすることが有効です。

受講生のお母さんには実際具体的なステップアップの方法をお伝えしています。

読み聞かせの際に、親子の自然な会話の中で「読みたい」と思ってもらえる。そして、少しずつ「できた」を増やすのがステップアップのポイントです。

急^せかして

「さあひらがなが読めるんだから一人で読んでごらん」

と言うのは、赤ちゃんに

「さあここからジャンプしてごらん」

と言っているのと同じです。

落ちて怪我^{けが}をしてしまいます。

楽しく一人で読めるように段階を追って親御さんがサポートしてあげてほしいと思います。

まとめ

「一人読み」は段階がある。

急かさず少しずつ階段を登ろう。

ゲームや動画しか見たくない子

これに頭を悩ます親御さんも多いのではないのでしょうか。

「読書」以前に、いかにゲームや動画以外のものに興味を持たせるか、をまずは念頭におく必要があると思います。

「ゲームも楽しいけど、〇〇も楽しい」と思えるものがあるとないとお子さんの依存性は大きく変わるの
は想像がつくでしょう。

実際、ゲーム中毒になった子どもの親御さんが慌ててサッカー教室に連れてきたが、その子はグラウンドでも泣いてタブレットをせがんでいた、という話を聞いたことがあります。こうなってからでは遅いですよね。

色んな楽しい、おもしろいものの一つにゲームもある、という位置付けを作ることがゲームとうまく付き合い
のための鍵^{かぎ}になると思います。

それには率^{そっせん}先して、他の楽しいものに気付かせてあげる機会を親も一緒になって作ることが必要です。

親はリーダーではなくて、応援隊。正しさを押し付けて導くよりも、楽しいものの選択肢を広げてあげる応援をする、というくらいの気持ちでいるとうまくいくのではないのでしょうか。

さて、言わずもがな、どの親御さんも「ゲーム」やYouTubeなどの「動画」はなるべく見ないでほしいと考えているようです。

しかし、その「見てはいけない」理由をきちんと説明できますか？

お子さんにとっての「ゲーム」や「動画」は親御さんのスマホと同じです。

仕事から帰ってきたらずっとスマホをいじっているお父さん、学校から帰ってきた子どもをスマホ片手に「おかえり〜」と言うお母さん。

内心ぎくり、とした方もいるのではないのでしょうか。

大人にとっても、疲れてホッと一息つきたい時、気になるものを調べたい時、誰かと愚痴^{ぐち}を言いたい時、スマホを手にしてしまいませんか？

そう思って手にしたらいつの間にか時間が経っていた、ということありませんか？

大人にとってもデジタルデバイスを手放すのは至難^{しなん}の業^{わざ}です。

子どもに至っては欲求を制御する力がまだ未成熟ですので、余計に「ゲームをしたい！」「YouTubeを見たい！」という衝動に打ち勝つのが難しくなります。

読書どころか、毎日の宿題をさせるだけでもケンカになってしまふ、というご家庭もあるのではないでしょう
うか。

なくてはならないものにゲームや動画がなっているとしたら、やめさせることは尚更難しいでしょう。

やめさせられるだけの理由を説明できますか？

「目が悪くなるから」

「貴重な時間を無駄にするから」

それは、子どもにとっては親の価値観でしかありません。

時間を巻き戻すことはできませんが、ゲームや動画に関して、初めに「お子さんとルール作りをする」ということをしておかないと、子どもの欲求に合わせてずるずるといつまでもゲームや動画の時間を許してしまうことになりかねません。

クリアする前にゲームを止めさせられたり、最後まで見る前に動画を中断させられたりしたら、かんしゃく癇癪を起こして泣いたり、叫んだり、拗すねたりしてしまう場合もあるでしょう。

そういった状況にならないように、事前に親はよく考えて、準備しておかなければいけません。

「泣く子と地頭には勝てない」と言いますもんね。

ここに我が家のゲーム導入の際のルール作りの例を記しておきますね。

①親が、ゲームを導入することでゲーム漬け・テレビ漬けになる心配があることを伝える

- ② そうならないためにはどのくらいの時間が適当か、子どもの要求と親の許容をすり合わせる
- ③ 双方が了承できる時間を決め、ルールを守れない時のペナルティを子どもに考えさせる
- ④ その他、条件などを話し合う
- ⑤ ルールとして決めた時間、条件、ペナルティなどを目の前で紙に書く
- ⑥ いつも目につくところやすぐに確認できるところ（ゲーム機の近くなど）に貼る
- ⑦ 子どもを信頼する

大切なポイントは「子どもに考えて決めさせる」ことです。

「一貫性の原理」（人間が持つ言動や信念を一貫したものにしたいという心理）に基づいて、「自分で言わせる」ことが大切です。

それを記憶に残すためにも紙に書いてください。

くれぐれも親の押し付けたルールでは守ろうとする効力が弱くなるので、子どもがきちんと納得がいったことを確認して、ルールとして落とし込んでください。

まとめ

「ゲーム漬け」を防ぐには

他にも楽しいことを持つこと。

成功の鍵は子どもが主体的にルールを決めたか

習慣がない子

「本は嫌いじゃない」

でも

「本を自分から読もうとしない」

「本は後回しになる」

というお子さんの場合。

こういう場合こそ、親御さんの「よかれ」が仇^{あだ}になっていることがあります。

例えば、

「この本おもしろそうだよ、読んでみたら？」

「じゃあゲームが終わったら読書の時間にしようか」

といった具合です。

一見特に悪くなさそうですが、スタンスに問題があるのです。

- ・本人がおもしろそうと思っていない本を押し付ける
- ・子どもが他のことに没頭しているのにそれを否定して読書を押し付ける

そう、子どもの立場に立たず、親目線で押し付けているのです。

当然、自分の気持ちや状況を無視されて子どもはムツとします。

子どもだって、好きなことがあるし、それを邪魔じゃまされたらムツとします。

なんとなくゲームⅡ悪、本Ⅱ善、という決めつけで、自分を否定されているような気がしてしまいます。本は嫌いじゃなくても、まずは子どもの立場に立った言葉かけやアプローチをしないと、反発されてしまいます。

親の都合のスケジュールで、読書時間を作られてもすぐに気持ちを切り替えることは難しいでしょう。

でも、習慣を作ってしまうえば、自然と「本を読む」体勢に入ることができます。

人間の行動の50%は「習慣的行動」によるものだという調査もあります。

好きな時に読書する、というのも一つの読書スタイルですが、毎日15分でもコツコツと読書を続けることで、好きな時に読むだけの人と比べると圧倒的な差が生まれます。

「塵も積もれば」です。

1ヶ月のうち、1時間×6回読書した場合、毎日15分を続けた場合、1年で1080分（＝18時間）の差、小学校6年間では6480分（＝108時間）の差になります。

これが、1か月に1冊くらい（約30分と仮定）の読書の子と1日15分読書した子の比較となるとその差はなんと、3万240分！（504時間）となります。

504時間あれば、週1回×1時間の習い事を10年やってもまだ余るくらいですよ！

こんなに読書量が違えば当然、単純に語彙力や読解力、表現力に大きな差が生まれるでしょう。

しかし、単にそれだけではなく、知識が広がることで、視野が広がり、将来的な展望や自分の可能性をも自分で切り開く力がついているはずです。

しかし、習慣作りと聞くと、難しい、しんどい、というイメージありませんか？

かくいう私も三日坊主で、飽き性です。

習慣作りについてはセミナーを受けたり、習慣作りの本をいくつか読んだりしたのですが、その中で分かったことがあります。

「習慣作りにはコツがあること」

習慣化するシステムを作ることです。

客観視して、改良しながら、より簡単に、より楽に、行えるようにしていくのです。

より楽しい、おもしろい、と思えるような導線を作ります。

ゴール地点まで、小さなパンくずを撒いていくような感じですよ。

お子さんとの習慣作りも、モチベーション作り、おもしろい本選び、達成時のごほうび設定など、細かいパンくずを仕込んでいくことができれば、お子さんも一つ一つとパンくずを辿^{たど}っていくうちに、知らず知らずに習慣化ができるようになっていきます。

その場合も、やはりお子さんに

「今日からは20時になったら読書タイムにしよう」

と、口だけで指示してできるものではないので、

「一緒に作っていくことで後は自走してくれる」

と考える親御さんの心の持ちようも大切になりますね。仕込みさえちゃんとできれば、あとが楽ですから。

まとめ

「読書の習慣化」を作るには

仕込みが大切

最後に

ここで挙げた、読書に「興味を持たない子」「言うことを聞かない子」「すぐに飽きる子」「自分で読もうとしない子」「ゲームや動画しか見たくない子」「習慣のない子」、そしてどんな子も、その反応は親のコミュニケーションの結果だということを、再度お伝えしたいと思います。

子どもの気持ちや興味や、一個人としての子どもをきちんと見てコミュニケーションが取れていなかった結果なのです。

だから「読めない子の理由の9割は親のアプローチの仕方である」と言ったのです。

だからといって、私は親御さんを責めたいのではないのです。

「あなたが悪いからお子さんが読まないんですよ」

と言ってしまうのは簡単です。

そうではなく、お母さんやお父さんのその気持ちがうまくお子さんに伝わっていないですよ、ということに気付いていただきたいのです。

色んなお子さんがいて、日本語が得意だったり、他の言語の方が得意だったり、本を読むよりスポーツが得意だったり、色んな性格のお子さんがいますが、どんなお子さんにも言えるのが、

「お母さんに（お父さんに）認めてほしがっている」

ということです。

それは自分の「好きなこと」だったり、感じた「気持ち」だったり。

そして、**どんなお子さんもお母さんが大好き**です。

大好きだから、自分のことをわかってほしい、認めてほしい、と思うんですね。

それなのに、自分の気持ちとは違うことを押し付けられたり、否定されたりすると悲しくなって、反発したり、コミュニケーションを取ることを諦めてしまいます。

親はいつでも子どもの幸せを願っています。

それが、一つボタンを掛け違えることで、両者の気持ちはすれ違ってしまいます。

私は小学生の頃から思春期にかけて、親に対する信頼を持てずにいました。

きっと母は私の幸せを願ってくれていたからこそ取った行動や言葉だったのだと思いますが、その行動や言葉に私は母とコミュニケーションを取ることを諦めてしまいました。^{あきら}

それは、長く傷になって残りました。

自分の子育ての時にも

「母にこうしてほしかった」

「こういつてほしかった」

と、当時の気持ちを思い出して、小学生の時に戻ったかのように苦しくなって泣いてしまうこともありました。

今なら、良かれと思ってしてくれた（言ってくれた）、その言葉や行動が下手くそなだけだったのだな、と思えるようになりました。

小学生の間は親と一緒に語り合ったり、共有することが多い期間です。

その間にできることは無限でもあり、また、有限の時間でもあります。

それなら少しでも早く間違った言葉がけやアプローチに気付いて、もっと楽しい親子の時間にしてほしいのです。

親に言われて嫌々^{いやいや}行っている塾の時間ほど、無駄な時間はないと思っています。

それなら親子で楽しい時間を過ごす方が何倍も価値がある。

私は「読書」を人生の味方にしてほしい、と思って「読書コーチ」として活動してきましたが、その中で、「親子の関係」がどれほど重要かを知りました。

どれだけモチベーションを上げるためのテクニックや方法を教えても、お子さんの耳にその声が届かなければ、何も意味もないからです。

でも、コツを知ればスムーズに言葉が届き、相手の反応も変わってくるのです。

その変化を聞いたとき、私もその親御さんと同じように本当に嬉しく感じます。

今からでも決して遅くはないです。

行動してみてほしいのです。

もっと子どもについての学びを深めたり、

コミュニケーションの取り方を学んだり、

今、目の前にいるお子さんの気持ちや興味を深く観察したり。

そうすることで自分が取るべきコミュニケーションがわかるようになるでしょう。

まずはネットなどの情報の中にある「お子さん」ではなく、目の前の「お子さん」についてよく知ってください。

だって、目の前のお子さんは他の誰とも同じではなく、世界にたった一人しかいないのですから。

著者紹介

あんこ

高校生の時ドラマ「ドク」を観て日本語教師に憧れ、社会人を経て日本語教師に。企業や専門学校、日本語学校などで日本語教育に従事。

夫の海外赴任に伴い、タイで6年間暮らし、出産、育児を経験する。当時陥った産後クライシスから『きみは赤ちゃん』（川上未映子著）と出会い、それをきっかけに読書の効果や子どもや子育てについて調べるように。

読書を通してもっと楽しく学べれば、自信がつき、自ら学んでいく力がつくんじゃないか？という思いから「読書」を味方にするための「読書コーチング」を広めていこう！と決意。

モットーは「楽しく」「強制しない」。

現在は日本の関西在住。

感想やお問合せは

メール：info@forest-of-anco.com

Instagram：https://www.instagram.com/forestofanco?igsh=MXZxMmRpbGNwZDIneg%3D%3D&utm_source=qr

Facebook：<https://www.facebook.com/forest.of.anco/>

お子さんがどんどん本を好きになる「読書コーチング」の講座について詳しく知りたい方は、無料相談説明会を開催しております。また希望者にはお子さんの簡易版「性格診断」結果を無料でお伝えしています。

・「**読書コーチング**」「**読み聞かせステップアップ**」講座 **無料相談説明会の開催日程**

また、海外在住のお子さん向けに学年は関係なく漢字を楽しく遊びながら学ぶ「**かんじの森 漢字であそぼう**」という講座も行っております。

・「**かんじの森 漢字であそぼう**」体験版 **説明動画**（約15分）